

社長の 決断力



あの決断がなければ、今どうなっていたと思いますか？
そう尋ねた私たちに、苦境を乗り越えた経営者たちは
三者三様の思いを語ってくれた。
挑戦をためらわず、未来を切り開いた彼らの言葉には
経営判断の真髓しんずいが詰まっている。取材・文 稲泉 連

いないすみ・れん
1979年東京都生まれ。ノンフィクションライター。早稲田
大学第二文学部卒業。「ぼくもいくさに征く」のだけれどー竹内浩三の詩と
死」で第36回大宅社ノンフィクション賞受賞。近著に
「サーカスの子」(講談社)がある。

P19 » Case 1
マッチングワールド株式会社
代表取締役社長
町田 博

P22 » Case 2
株式会社さかもと
代表取締役社長
坂本英典

P24 » Case 3
株式会社ヒイズル
代表取締役社長
井上直樹

P26 » Interview
慶應義塾大学大学院
経営管理研究科
松下幸之助チェアシップ基金教授
清水勝彦

この事業は、 必ず社会のためになる

余剰在庫の流通事業で急成長を遂げるマッチングワールド株式会社を、
かつて襲った「暗黒の10年」。資金繰りに苦しみ抜いたこの時期に、町田博
社長のよりどころになった決意の背景を伺った。

代表取締役社長 町田博



【会社概要】
▶設立=2001年 ▶事業内容=ゲーム・玩具などの流通
プラットフォーム事業 ▶従業員数=96名
▶本社=東京都中央区

「法的に破産しては
いかがでしょうか」

マッチングワールドの社長である
町田博さんは、同社を五三歳のとき

に起業した。二〇〇一(平成13)年の
ことである。国内のゲームソフトや
ゲーム機、玩具やキャラクターグッ
ズなどの余剰在庫を、独自に開発し
たプラットフォーム「M-マッチン
グシステム」によってマッチングさ

せる同社の事業は、創業から順調に
売り上げを伸ばしてきた。
だが、およそ二五年の歴史を振り
返るとき、彼には「暗黒の一〇年」
と呼ぶ苦しい時期があった。上場も
視野に入れていた〇八(同20)年、

リーマン・ショックをきっかけに金
融機関からの貸し剥がしを受け、資
金繰りが厳しくなったのである。
「売り上げが一時的に大きく落ち込
み、社員の給料などの支払いを済ま
すと、銀行の預金残高が一〇〇〇円